

田村喜子さんに見る

土木のころ

「田村喜子さんに見る土木のこころ」の会 開催にあたって

清秋の候、皆様にはご清祥のことと存じます。

作家であり、土木学会名誉会員でもあった田村喜子さんが3月24日に他界され、初めての秋を迎えようとしています。

6月には、名著『京都インクライン物語』が中央公論新社より文庫版として再版され、田村さんが描き続けた土木の世界、土木技術者のこころを改めて多くの方々に伝えることとなりました。

さて、このたび発起人一同にて、毎年田村さんの誕生日である10月25日に、「田村喜子さんに見る土木のこころ」の会を開くことと致しました。



田村さんが応援し続けてくださった土木に携わる私たちが土木学会に集い、土木のこころを語り合うひとときを作りたいと思います。

発起人

青山 俊樹	元水資源機構理事長
小野 武彦	土木学会会長
小森 博	海外鉄道技術協力協会会長
佐藤 直良	国土交通省事務次官
高橋 裕	東京大学名誉教授
中村 英夫	東京都市大学総長
山本 卓朗	土木学会顧問

平成24年10月25日

(表紙題字：高橋裕先生筆)

式 次 第

第一部

- 一、 開会の辞
- 一、 黙とう
- 一、 田村喜子さんのご経歴紹介
高橋 裕 氏
- 一、 映像で見る田村喜子さん
(土木の日シンポジウム講演)
- 一、 田村さんに見る土木の心を語る
中村 英夫氏
小森 博 氏

第二部

- 一、 献杯
小野 武彦氏
- 一、 ご歓談
- 一、 御礼の言葉
佐藤 直良氏
- 一、 閉会の辞

☆皆様から寄せられたメッセージをご紹介します（順不同）。

田村先生と黒部：飲み屋「みずき」が先生を囲む会の京都の主会場であった。ある日、黒部の氷筍が話題となり、見に行くことが決った。同席していた関西電力常務の原田稔さんのお世話で、2001年2月16日～17日の行程で黒部訪問が実現した。17日は快晴で暖かい春の一日となり、お目当ての氷筍は当然のこと、黒部ダムへの積雪の上に立ち、立山の冬の雄姿をも満喫することができた。この夏も、忘れ得ぬ先生との旅の黒部に立つことができた。（足立 紀尚）

田村さん、ありがとうございました。（青山 俊樹）

我々土木人に「夢とロマン」そして楽しい思い出を残していただいた田村喜子先生、本当にありがとうございます。（猪股 純）

昨年3月の交通図書賞の表彰式（「余部鉄橋物語」）でお目にかかったのが最後でした。遺された数々の名著に敬意を表します。（江頭 誠）

建設コンサルタント中長期ビジョン ATI 構想（1989年）で大変お世話になりました。ありがとうございました。（大島 一哉）

余部の現地調査の折、車の乗り降りや坂道を歩く際に、「私は同行者の中で一番若い男性にエスコートしてもらうことにしているのよ」とお茶目な一面がほほえましかったです。（川崎 光雄）

田村先生とは、第一回目の余部橋梁現場視察でご一緒させていただきました。まさに紅葉の季節、城崎温泉での先生の会話一つ一つが貴重な思い出です。松葉ガニとビールもですね……（瀧 美奈子）

田村先生とは「日吉ダム」「祇園」「引越し」「摺上川ダム」……と広く長くお付き合いをさせていただきました。不肖の息子だからこそ可愛がっていただき、たくさんの人と合わせていただき、ただただ感謝しております。先生に教わった「土木のこころ」を後輩に間違いなく伝えてまいります。ありがとうございます。（乗京 正弘）

出席できなくて残念です。当日は楽しい会になりますように。私にとっては、よい思い出ばかりの人でした。（初めて出会った時のエピソードがありますが、またの機会にしましょう。）（松尾 稔）

3月25日東京からの電話の訃報にただただ驚きました。前日の午前、札幌のちえりあ生涯学習センターでの「明日を作った男」のアニメ映画の、琵琶湖疏水の解説役のお元気な姿を拝見したばかりでした。今、『北海道浪漫鉄道』に寄せる「土木技術者の精神（こころ）」について熱く話合ったことを思い出します。このうへは、北の大地の風となってやすらかに眠り下さい。（新山 惇）

御高齢にもかかわらず最後までほぼ現役であったその持続力と集中力は、古希をすぎた私にとってもお手本として、努力してみようと思っています。（松田 芳夫）

山陰線切り替えでの徹夜 神戸の震災現場をバイクで駆けた日 飲み会でのいつもの闊達な姿 自作の河童の箸置き そして 美しい文字の便り One of them など 数々の心に残ることばがよみがえります ありがとうございます（田中 輝彦）

余部橋りょう架替工事を担当させてもらった私にとって、「余部鉄橋物語」は一生の宝物です。（中原 俊之）

「京都インクライン物語」を執筆された際、縁があって土木技術者の生き様についてお話したのを機会に、「まーいい会」と称して一緒に旅をしたり、年に1回我が家で家族ぐるみで懇親したりと、親しくさせていただきました。1996年そんな家族会の最中に北海道豊浜自動車トンネル落盤事故のテレビニュースが入り、先生がその建設関係者何人かの知己に励ましの電話をされたりして、女性らしい心遣いをされていたのを思い出します。（有岡 正樹）

田村喜子さんとは練馬区の「大泉スワロー体育クラブ」のスイミングクラブで永い間、同じコースで泳いでいたことから始まり、共通の土木に関してのお付き合いもさせていただくようになりました。一番の思い出は、2007年2月に田村さんの仙台での講演会の帰りに「蔵王温泉スキー場」にご一緒したことです。吹雪の中、ロープウェイで頂上に行き、お地蔵さんを触りながら、はしゃいでいたことが今でも忘れられません。（速水 洋志）

当日、別用のため欠席させていただきます。「余部鉄橋物語」の出版記念パーティではお元気な姿を拝見したのに残念です。ご冥福をお祈りします。（甲村 謙友）

北海道浪漫鉄道の最終駅、北海道新幹線札幌駅の着工が決まりました。田辺先生、田村先生の北海道へかけた思いが結実しました。（佐藤 馨一）

田村先生のテーマである「土木のこころ」のお話し会が先生のご誕生日に開催されて、お招きいただきまして感謝しております。（忍見 武史）

残念ながら海外出張の予定が入っており参加させていただけません。ご盛会をお祈りします。（建山 和由）

「土木のこころ」は永遠です。ありがとうございました。（阿部 悟）

田村喜子さんが、「京都インクライン物語」を出版されたのを機会に、土木学会誌編集委員会で、高橋浩二会長との対談を企画し、その担当委員として立ち会ったのが、最初のご縁です。「弟達の会」の三男坊として、大泉学園から麻布十番まで、3つのご自宅に、年何度か押し掛けて、お酒を戴きながら、土木に対する熱い思いをお聞きしていました。我々は、喜子姉さんの応援を力にして、時代にシュリンクすることなく、自信と使命感を持って、頑張っていかなければと思っています。(橋口 誠之)

2002年中国成都市沙河総合整備マスタープランの国際コンペで当社が1位となりご多忙中の先生も長駆成都市へ旅をされました。紀元前2世紀に造られた都江堰の史跡まで足を延ばし、外江内江の大治水工事をつぶさに見学され往時を偲び大変感動されました。総てを見て歩き納得をしてから語る、先生の真骨頂でした。もみじの時節南禅寺の水路閣を訪ね、先生の大好きだった嵯峨野の湯豆腐を賞味いたします。合掌(舌間 久芳)

へえへえ ほうほう！さらりと身を乗り出す。まずはビールか ほな次は！好みは多彩。甘い玉子焼きは好かん！嫌いはいはっきり。腹膨れてきたら あかんのやて！人ごとみたいに。みんなの声をしっかり受止め逝った人。喜子先生(阿部 洋一)

私にとって田村喜子先生との最大の思い出は、JR大阪工事事務所長の時に田村先生が余部橋りょう架替の工事現場を何回か訪問された際に、「余部橋梁物語」執筆に対する先生のゆるぎない情熱に触れることができたことです。新橋梁が完成間近の一昨年7月に先生の最後の著書ができあがり、その見事な筆致や登場する方々の心情が切実に伝わる作品に感動しました。合掌(杉本 孝行)

本会発足そして第1回目の開催、本日は誠にありがとうございます。3月に田村先生が亡くなってからも、時折、生前楽しく懇談させていただいたこと等を思い出してしまうこの頃です。やさしい笑顔、なにか懐かしさを感じる京ことば、たまに見えますチャーミングな仕草など、田村先生にもっともっとお逢いしたかったのですが……残念でなりません。(大村 敦)

田村喜子さん、そちらで恋人の田辺朔郎さんに逢えたでしょうか。逢って、北海道に思いをはせながら、並んで馬上の人となり、北海道開拓以来の先人の積み重ねの成果である今日の姿を報告してくれているのかもしれないですね。いま、北海道は豊かな秋の実りにつつまれています。安らかに。(山本 隆幸)

土木遺産を始めとする多くの先達が築かれた足跡を想い、また訪れるたびに、わが国の近代化や地域の発展に熱き想いをもち、質の高い社会資本の整備に取り組んでこられた方々に胸を打たれ、その志を引き継いでいかねばと思う。田村先生は、こうした多くの土木技術者の姿勢に共鳴されると共に、私たちに励ましと警鐘を数々の著書で訴えられてこられました。皆さんと共に、田村先生のご遺志を受けて、土木の心と技について語り合いたいと思います。(小野 武彦)

田村さんの「志」そして「土木のこころ」を広く、絶やす事なく、伝えていきましょう。(佐藤 直良)

八田与一さんのお孫さんが愛知県建設部におられることを最近知りました。「土木のこころ」が伝わっているのだと感動しました。(藤兼 雅和)

いつも変わりなくかわいがっていただきました。やさしくうれしそうに「ありがとう」の言葉が忘れられません。(富田 邦裕)

先生には(株)フジタで講演をお願いし、以来20年近く親しくさせていただきました。高橋 裕先生が弔辞で話されましたが、ご自宅で大賑わいの楽しい語らいの場に何度か同席させていただいたこと、執筆中の忙しい時でも私たちを大事にしてくださったこと、北は小樽、南は長崎、京都、福島など全国をお供して行く先々で立派な方々とお会いし、見聞を広めたことなど、たくさんの心温まる思い出を、本当にありがとうございました。(茶山 和博)

国際協力の先駆者たちと銘打って、土木技術陣が当時のザイール共和国で活躍している様子を「ザイールの虹・メコンの夢」として世に出していただきました。完成時には当時皇太子殿下・妃殿下ご訪問の栄に浴し、既に30年近くたちますが、当時から続くコンゴ人と日本人の絆がアフリカ唯一の鉄道・道路併用吊橋(マタデイ橋)を現在にいたるまで健全に保ち、さらに未来に引き継ぐ原動力となっている事をご報告いたします。(溝畑 靖雄)

田村先生の現地(余部)取材にはよく同行させていただきました。車窓より「あれは単純桁」「これがラーメン構造です」と会話したのが、なつかしいです。(宮脇 廣喜)

今回の企画をして頂きました高橋裕先生、佐藤事務次官をはじめとする発起人の皆様様に深く感謝を申し上げます。これも生前の田村喜子先生の土木事業また土木技術者に対するご理解と真心を持ってご支援された事が著名な方の心を自然と動かされ、この会になったと、あらためて小さな巨人の偉大さを感じました。天国の田村先生、生誕の日に大勢の方に集まって頂き本当に良かったですね。賑やかな事が好きでしたから、さぞかしお喜びの事でしょう。田村喜子は皆様の記憶に残り心の中にずっと生きております。(持山 銀次郎)

楽しみに伺います。(折谷 泉)

皆さんとともに田村喜子先生の遺徳をしのびたいと思います。(上総 周平)

土木の応援団長・田村喜子さんの著作出版・編集のお手伝いを通して、田村さんが愛し、大切にしてくられた「土木のこころ」の一端を教えてもらいました。(橋口 聖一)

京都インクライン物語が、とても印象に残りました。虫プロの映画も何回も見ました。田村様にならい、明日を明るく見つめてゆきたいと心がけています。(岡崎 孝夫)

“土木のこころ”の取材でのこと。当社の下請けの親父である笹島建設・笹島信義氏を著名な技術者たちと並んで取り上げた時、田村先生は「彼らのような人たちがいて国づくりができた。日本の土木の誇り。感謝の気持ちを忘れてはならない。」と言った。先生は土木がどのような人々の苦労の上で成り立っているのかを完璧に理解し、分け隔てなく広く深く土木を照らす太陽だった。これからも我々の心の中を照らし続けてくれるだろう。(大田 弘)

田村先生と初めてお会いしたのは、福島県の山形新幹線の工事現場においでになった時です。当時、工事区長としてご案内したことをよく覚えています。とてもハイカラで……。あれから20年。先生の晩年に「弟達の会」に異母弟として加えていただき、貴重な経験をさせていただきました。田村先生の思い出とともに、永く「土木のこころ」を繋いでいきたいと思います。(大西 精治)

田村先生との唯一の共著『鬼かけっこ物語』の創作を通じ作家の心の原点をお教えいただきました。先の遺徳を偲ぶ特集号に寄せられた玉稿を読ませていただき、目頭が熱くなって参ります。合掌(竹林 征三)

先日、田村先生の『京都インクライン物語』を片手に、あらためて南禅寺周辺の疎水を巡り、名著をあじわわせていただきました。田村先生ありがとうございました。(古木 守靖)

今年の2月のある日先生から電話があり、普段と変わらぬ明るい声で「Xデーが決まったわよ」とのお話。担当の医師から、3月13日が「Xデー」だと告げられたとのこと。それでも先生はこれまで通り終始自分の運命を自然に受け止め、淡々とされていた。『私は浪漫を持った大勢の立派な土木屋の皆さんに囲まれて本当に幸せな人生だったわ』との言葉を想い出し、土木技術者の永遠の恋人田村喜子先生の見事な人生の幕引きを、心から祝福する気持ちで迎えられようような気がした。(藤本 貴也)

私が田村喜子先生と初めてお会いしたのは平成6年6月3日、私が事務所長をしておりました宮ヶ瀬ダムの工事現場です。私と本体JVの田代民治所長(現鹿島建設株式会社副社長)が現場の案内役を務めました。先生には、最盛期を迎えていた「日本一のダムづくり」宮ヶ瀬ダムの現場をご覧いただき、ダムの大ファンになっていたのだと自負しています。(足立 敏之)

このたびは亡き母の誕生日に会をご企画くださり、厚く御礼申し上げます。母は賑やかなことが大好きでしたので、心から愛した土木屋の皆さんが集まっていただけのことをととても喜んでいることと思います。本当にありがとうございます。(田村 安)

道の駅の取材にご一緒したことをきっかけに、お付き合いさせていただきました。ちょうど「カムイ伝説」のCDができた頃で、帰りの車で一緒に繰り返し聞いたことが昨日のここのように思い出されます。(岡部 安水)

10年前、風土工学のシンポジウム懇親会で田村喜子様と話す機会があり、「私は清廉潔白過ぎる青山士翁は書けない」と仰るのを聞き「では、私が楽曲で翁を表現します」と答え、2年前に「義勇 青山士」と題した楽曲が完成。現在、土木の語り部として、「私家版 青山士翁物語」を語っています。(鬼小路 皆楽(藤田 俊英))

皆様とともに田村喜子さんを偲ばせていただきます。田村さん、ありがとうございました。ご指導の数々は私達の心に生き続けています。なんとしても土木の心を繋げていきたいと思います。(岡野 真久)

田村喜子さんが、お亡くなりになる1カ月ほど前(2月13日)、広尾の日赤病院の「緩和ケア病棟」を訪ねしました。「わたしは、曾野綾子さんのような、小説家ではない。ノンフィクション作家です。事実の中に、土木に生きた人たちの心を見出すのが仕事です」と、しっかりした口調で語ってくださったのを、覚えています。「あなた65歳なら、あと15年頑張りなさいよ」と、励まされて帰ってきました。(角田 光男)

土木技術者のこころを愛したひと：土木学会は昭和58年著作賞を創設した。関東支部の幹事会は「京都インクライン物語」田村喜子さんを幹事全員一致で推薦し、目出度く第一号の受賞作家となられた時は、推薦者の一人として誇らしく思った。この出会いから早や30年を過ぎようとしている。その間いろいろな出会いの中で思ったことは、田村先生は田辺朝郎を初恋の人をはじめとして、わたしたち土木屋のこころを、自分の恋人を自慢するがごとく語られる様は、母のような錯覚さえ覚えつつ、いつも感動していた。(高柳 義隆)

田村喜子という人に出会えたこと、そして、最期まで傍にいたことが出来たことに心から感謝し、誇りに思います。先生からは沢山のことを学び、教えを頂きました。何よりも土木の心、日本国・国土の愛し方を教えて頂きました。そして、土木の応援団長の先生が愛してやまなかった土木屋たちへの熱き思いを、明日を担う若き土木屋たちに未来永劫に継承して頂くよう、心から願っております。改めて「田村喜子の華麗な人生に乾杯！」(新井 貴子)

田村先生とは、いつもおだやかで楽しい時間を過ごさせていただきました。メールの相手がいなくなったことも含めて、影響大です。先生が亡くなった3月24日に、札幌で子供達に見てもらった映画「明日を作った男」を、もっとたくさんの人に見てもらって、土木の心を伝えたいですね。(森田 康志)



1994年4月22日 録食彫を前に
(提供：井原恒子氏)



1999年9月22日 美瑛にて
(提供：森田康志氏)



2001年2月17日 黒部ダムと立山
(提供：足立紀尚氏)



2004年9月21日 関門海峡「明日を作った男」
上映会 in 福岡 (提供：折谷 泉氏)



2004年10月13日～22日 第9次・河川環境米
国西部調査(団長：高橋裕先生)カリフォルニヤ
州・水資源管理局で (提供：鏑山英次氏)



2007年2月 蔵王温泉スキー場
(提供：速水洋志氏)



2012年1月19日 ご自宅にて
(提供：大西精浩氏)



2009年10月25日 喜寿のお祝い会
(提供：高橋 渡氏 左上の写真も)

「田村喜子さんにみる土木のこころ」の会実行委員会
事務局 森田、大西、高橋（董）、坂本
(土木学会内)